

2023年8月28日  
日英教育学会シンポジウム  
「英国の独立学校を考える」

# 私立小学校と プレップスクール

話題提供者  
小針 誠(青山学院大学)



関連資料(小針2013)をQR  
コードよりダウンロードください。

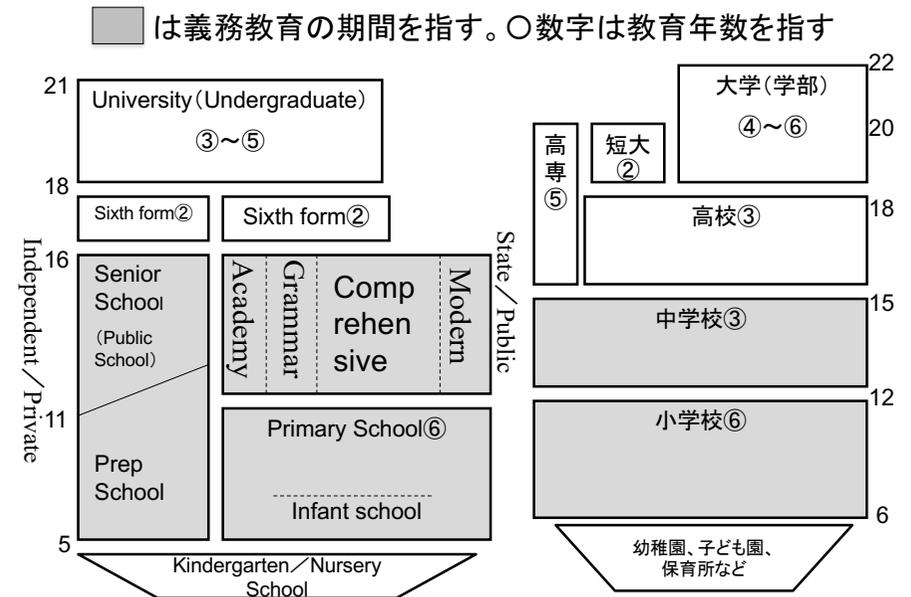
## 本日の目的・内容

- 本シンポジウムのテーマ「英国の独立学校を考える」に対して、その初等教育機関であるPreparatory School(Prep School、以下PSと略記)についてお話します。
- わたしは、当時の本務校である同志社女子大学の在外研究制度を利用して、2012年度の1年間(2012年4月～翌13年3月)、英国・オックスフォードに滞在し、当地でPSの調査・研究をし、帰国後はその成果を論文や著書として発表してきました(小針2013,2015)。
- 本日は、日本の私立小学校との比較を意識しながら、未発表・未公開のPSに関する内容・資料(写真)を交えつつ、日英の初等教育段階の私立／独立学校の特徴、日本の教育(特に日本版・英国BS)への示唆などをお話したいと思います。
- ただし、先掲の研究以降、わたしのPS研究はほぼ進捗していません。最新の情報をご存じの先生方、どうぞご教示ください。

## 私立小学校&プレップスクール研究歴

1997年	東京大学大学院教育学研究科修士課程(比較教育社会学コース)入学 * 日本の私立小学校の入学志向・入学選抜研究を開始(歴史研究を中心に)
2000年	「国立・私立小学校の入学志向に関する実態調査」(「00年調査」)実施 * 首都圏の国立・私立小学校志望の保護者を対象とした質問紙調査(n=604)
2004年	同志社女子大学現代社会学部(京都・京田辺市)へ赴任(至・2017年3月)
2005年	博士論文『東京・私立小学校における入学志向と入学選抜メカニズムに関する歴史社会学的研究』
2009年	単著『くお受験』の社会史』(博論本)を世織書房より刊行 * 今後の研究課題: ①国立小学校、②小学校受験の通史、③海外との比較研究
2012年	在外研究 於: オックスフォード大学 ニッサン日本問題研究所 * PSの調査研究(学校見学、授業参観、関係者へのインタビュー)
2013年	日本子ども社会学会『子ども社会研究』19号に「英国のPrep Schoolと日本の私立小学校」(海外教育事情)掲載(=小針2013)
2015年	単著『くお受験』の歴史学』を講談社(選書メチエ)より刊行(=小針2015) * 博論本に書いた今後の研究課題のうち、②と③を同時達成!?
2017年	青山学院大学教育人間科学部(東京・渋谷区)へ赴任(至・現在)
2021年	「国立・私立小学校の入学志向に関する実態調査」(「21年調査」)実施 * 首都圏の国立・私立小学校志望の保護者を対象とした質問紙調査(n=645)

## イングランド(左)と日本(右)の教育制度

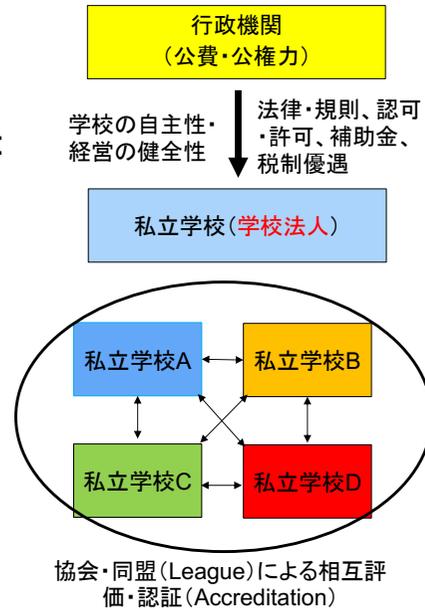


# 日本の私立学校・英国の独立学校

## 公教育としての日本の私立学校

- 私立幼・小・中・高・専・各：都道府県の所管
- 私立大学・短大：国の所管

## 英国(イングランド)の私立学校は、「公」からIndependentしているSchool(独立学校)。



# 在英中に訪れた主なPS

- Summer Fields School
  - 1864年創設、オックスフォード郊外
  - 7~13歳、男子校、全寮制
- Dragon School
  - 1877年創設、オックスフォード郊外
  - 4~13歳、共学校、寮・通学制併用
  - 慶應義塾幼稚舎と提携校
- Cheam School
  - 1645年創設、ウェスト・バークシャー
  - 3~13歳、共学校(かつては男子校)、寮・通学制併用
  - チャールズ3世(英国王)が1957年に入学

# 英国チャールズ王子 私立校の寄宿生徒に

(朝日新聞 昭和32年8月15日朝刊)

【ロンドン十四日発=AFP】英王宮バッキンガムパレスは十四日「今年八歳の英王位継承者チャールズ王子は、来月英国でも一番有名な、少年のための”私立予備校”の一つに寄宿生になられるだろう」と発表した。この学校はチーム予備校で、ロンドンから九十キロ離れている。チャールズ王子の父エジンバラ公は九歳から十二歳まで(略)同校の生徒であった。チャールズ王子をチーム校に入れる決定は、エリザベス女王とエジンバラ公が同校を訪問されて校長と話した後、女王御夫妻が行った。英国の私立予備校は、英国の貴族と上層中産階級の子弟が大部分を占める中等学校パブリック・スクールに入る子供の準備教育をやる学校である。(略)英王室と王族が過去に受けた教育方法に対しては最近アルトリンシャム卿が痛烈に攻撃し英国朝野に議論がわいていたところである。アルトリンシャム卿はチャールズ王子の教育が階級的偏見にそまらないよう同王子を英国児童の大多数と一緒に小学校に入れるべきだとのべていた。チーム校は一六四六年の創立で、生徒は約九十名。秋の学期は九月末ごろ始まる。

当時の日本で、この記事の内容をどれくらいの人が理解できたろうか・・・？そもそも日本に紹介した朝日新聞社内でも、どの程度、この外信の内容を理解して、記事にしていたのだろうか・・・？



①Open Morning(学校見学会)の案内・表示



②校長先生のご挨拶・説明



③19世紀の成績優秀者(Honours)



④校長先生と父母・子どもとの会話



⑤校長先生・案内の児童とならんで



⑥校舎と校庭



⑦教室



⑧Mathの自習風景



⑨Mathのテストの成績上位者



⑩図工室



⑪ガウン



⑫chapel(礼拝堂)



⑬Accommodation(学寮)へ案内



⑭寝室



⑮ベッド、そして枕元には・・・



⑯teatime



## 日本国内の”英国ボーディングスクール(BS)・ブーム”について考える

学校名	開校年	設置場所	対象年齢	備考
ハロウ インター ナショナルス クール安比ジャ パン	2022年 8月	岩手県 八幡平市	11～18歳 (小6～高3)	各種学校、全寮制、定員 900名、学費(授業料・寮費 込)は年840万円～920万 円台
マルバーンカ レッジ東京	2023年 8月?9 月? (予)	東京都 小平市 (文化学園 大学跡地)	5～14歳 (2026年まで に18歳まで)	無認可校?【註】、通学の み。定員は約950名(予)、 授業料は年250～270万円。
ラグビースクー ルジャパン	2023年 9月 (予)	千葉県 柏市(千 葉大学柏 の葉キャン パス内)	11～18歳 (小6～高3)	各種学校、通学・寮併用、 定員約780名、授業料は年 450～550万円+寮費・年 320万円(全日)or290万円 (週末帰宅)。

【出典】各校のホームページならびに『週刊東洋経済』2023年6月24日号を参考に作成。  
【註】マルバーンカレッジ東京は、2022年度までに、東京都私学審議会で、各種学校なども含めて認可された形跡は確認できない。

## 日本版・英国BSの課題

- 日本版・英国BSのセールスポイント…全寮制(通学制と併用も)、少人数教育、全人教育(Whole Person)、英語・バイリンガル教育、探究学習など
  - 日本の教育改革路線を先取り?または同時並行+α?
  - 日本(+東アジア)の富裕層を中心に注目を集めている。
  - 家庭背景:世帯収入は4000万円以上、外資系コンサル社員、上場企業の経営者、医師、銀座等に店舗を構える経営者など(『週刊東洋経済』2023年6月24日号)。
- マスメディアでは、セールスポイントばかりが喧伝されて、現地BSの問題や課題が十分に周知されていない。
  - いじめ、ホームシック、落ちこぼれ等による退学・退寮問題
  - 日本版BSの制度的安定性
  - 日本版BSの教(職)員の質保障
- 日本版・英国BSはどこへ向かうのか?
  - 現地BSの”コピー”路線…「コピー」になりうるのか?
  - 日本版BSの”独自”路線…学校の存在意義が問われる

## 英国パブリック・スクールの 教育像とその諸相

文部科学省 古阪 肇  
(furusaka@mext.go.jp)

日英教育学会第32回年次大会  
於) 専修大学神田キャンパス 2023年8月28日 (月)

1

## 発表の流れ

- 発表の目的
- 英国パブリック・スクールの定義
- 大学進学
- 課外活動
- パストラル・ケア
- 親及び生徒本人が望むこと
- 政府や独立学校の取組
- まとめ

Rugby School in 2016 (発表者撮影)



2

## 発表の目的

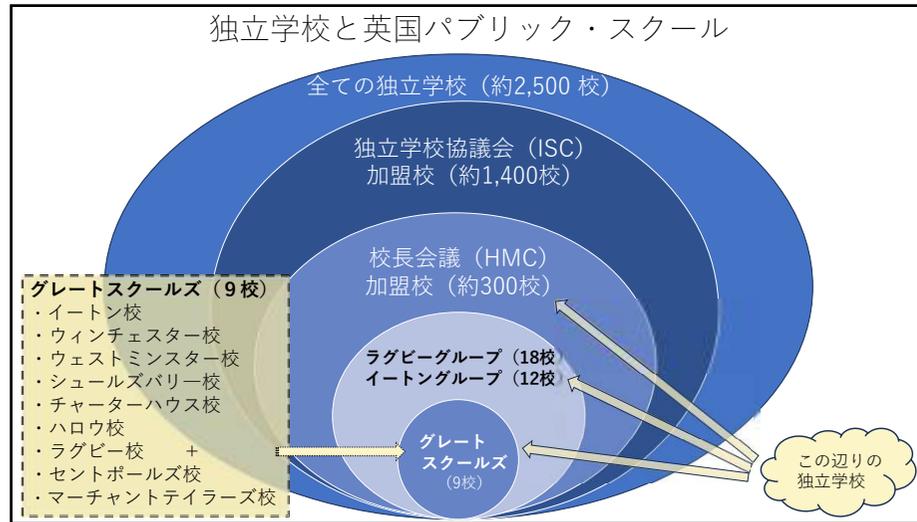
- 独立学校におけるパブリック・スクールの定義について整理する
- 英国パブリック・スクールを主に、①大学進学、②課外活動、③パストラル・ケア、④親及び生徒本人が望むこと、という4つの側面からアプローチし、そこから見えてくる教育像とその特徴を捉える
- 政府や独立学校団体の支援状況等に触れ、現代のパブリック・スクールをめぐるイギリスの教育の在り方について考察を深める

3

## 英国パブリック・スクールの定義

- 公的な定義は特になし。独立学校の一部を指す俗称。
  - フレミング報告(1944)：校長会議(HMC)加盟校及び独立学校組織委員会(GBA)がパブリック・スクールの範疇に入る。
  - ヴィヴィアン・オギルヴィ(1957)：①富裕層を対象とした高級学校、②学費が高い、③イギリス全土から生徒が集まる、④寄宿学校が多い、⑤国や地方からは独立しているが民営あるいは営利目的で運営されていない場合も多い。
  - 竹内洋(1993)：主として寄宿制で、授業料が高く、豊かな階級の子弟を全国規模で集めている私立中等学校。
  - 鈴木秀人(2002)：私立学校の中でもごく一部の有名な中等学校で、英国社会の長い歴史の中で慣習的に社会通念として認知されてきた数十校。
- 社会通念的に有名で、学校自体が裕福であり、また受け入れる生徒も裕福な者が多い私中等立学校

4



5

### 大学進学

School	Type	Applied	Offers	Success Rate
1 Westminster School	Independent	198	79	40%
2 Hills Road Sixth Form College	State	300	69	23%
3 Peter Symonds College	State	208	56	27%
4 Brampton Manor Academy	State	242	54	22%
5 Brighton Hove and Sussex Sixth Form College	State	219	32	14%
6 The Perse School	Independent	137	48	35%
7 Eton College	Independent	194	47	24%
8 St Paul's Girls School, London	Independent	98	40	41%
9 St Paul's School, London	Independent	134	40	29%
10 Queen Elizabeth's School, Barnet	State	108	39	35%

(左表) 2022年度オックスブリッジ合格者数トップ10の学校リスト

- ・ トップ10は公営学校が5校、独立学校が5校。
- ・ オックスブリッジ全体の合格者数

2001年度  
公営学校 = 51%、独立学校 = 49%

↓

2022年度  
公営学校 = 69%、独立学校 = 31%

→合格者数の割合はこの20年で確実に公営の割合が高くなっている。

(出典) Keystone Tutors, Oxbridge - Which Schools Get the Most Offers? (https://www.keystonetutors.com/news/oxbridge-which-schools-get-the-most-offers#)

6

### パブリック・スクールと大学進学

1	Westminster School
2	The Perse School
3	Eton College
4	St Paul's Girls School, London
5	St Paul's School, London
6	Magdalen College School, Oxford
7	City of London School
8	Sevenoaks School
9	Highgate School
10	Brighton College

- ・ 独立学校トップ10の全てロンドン市内あるいはロンドン近郊に集中。
- ・ 独立学校トップ10のうち完全寄宿制はイートン校のみ。
- ・ 独立学校トップ10のうち男子校はイートン校とセントポールズ校のみ。
- ・ 独立学校トップ10のうち女子校はセントポールズガールズのみ。
- ・ 独立学校トップ10は全て入学時の学力審査基準が非常に厳しいことで知られる。

(出典) Keystone Tutors, Oxbridge - Which Schools Get the Most Offers? (https://www.keystonetutors.com/news/oxbridge-which-schools-get-the-most-offers#)

7

### パブリック・スクールと大学進学

- ・ パブリック・スクールのトップ校の進学率は100%に近く、オックスブリッジ合格率も高い。
- ・ 2021年度のオックスブリッジ合格者数トップ10にグレートスクールズ (ザ・ナイン) の3校がランクイン

- ウェストミンスター校 (1位)
- イートン校 (7位)
- セントポールズ校 (9位)

Eton College in 2016 (発表者撮影)

8

### グレートスクールズ（ザ・ナイン）の最新進学データ

学校名（創立年）	大学進学率	生徒数／最終学年人数	オックスブリッジ進学率／学年
ウィンチェスター校（1382年）	99%	690人／138人	37%
イートン校（1440年）	—	1320人／—人	毎年約75人（25%程度）
セントポールズ校（1509年）	98%	920人／172人	29%
シュルーズベリー校（1552年）	92%	819人	8%
ウェストミンスター校（1560年）	99%	746人／193人	47%
マーチャントテイラーズ校（1561年）	100%	891人／141人	12%
ラグビー校（1567年）	99%	813人／170人	12%
ハロウ校（1572年）	—	832人／—人	20名程度（13%程度）
チャーターハウス校（1611年）	99%	800人／—	14%

（出典）Guide to Independent Schools 2023 他を基に発表者作成

### 【比較】グレートスクールズ（ザ・ナイン）の2012年度進学データ

学校名（創立年）	進学率(%)	オックスブリッジ合格者(人)	オックスブリッジ合格者/学年(%)
ウィンチェスター校(1382年)	99(%)	40-50(人)	37(%)
イートン校(1440年)	96	60-80	30
セントポールズ校(1509年)	99	60-70	33
シュルーズベリー校(1551年)	98+	10	9
ウェストミンスター校(1560年)	99	80	45
マーチャントテイラーズ校(1561年)	100	22	16
ラグビー校(1567年)	99	16	12
ハロウ校(1572年)	99	20	15
チャーターハウス校(1611年)	99	20-25	14

【比較】  
10年前と現在で、グレートスクールズの進学率やオックスブリッジ合格者数に大きな変化はなし。

（出典）発表者作成。

### 各校の大学進学準備の考え方

- ウィンチェスター校、ハロウ校、シュルーズベリー校の3校へのインタビュー（いずれも2013年6月実施）。
- 3校とも大学進学対策を常に念頭に置き、最重要事項として取り組む姿勢。
- 3校とも、生徒の入学直後からナショナル・カリキュラムにも対応が可能なプログラムが生まれ、アカデミックな科目の充実と生徒の成績向上に尽力。
- ハロウ校では、従来のGCSEおよびAレベル、あるいはASレベル試験での進学指導を行っている。同校ではIBはAレベルと異なり、生徒が必ずしも学びたくないジャンルまで6つ選択しなければならないという性質のものであるため導入しない。
- 修了生の4割近くがオックス・ブリッジへ進学するウィンチェスター校では、GCSE対策においても、好成绩が取られるよう徹底しており、好成绩を出すのが難しい歴史や英文学といった科目は、生徒の興味如何に関わらず受験させない方針を採っている。

学校名	人物	発言	備考
ハロウ校	教務主任	・Pre-U導入にはまだ懐疑的。ALレベルで成功しており、生徒も保護者も満足しているため慎重に。 ・英国で、また世界中で一番優秀な生徒を入学させる。	・他の2校に比べて、体育や芸術にも教育の力を注いでいる模様。 ・オールラウンドな教育を心がけている。 ・チューターに加え、校の自由時間に下級生は見回りにきた上級生に勉強を見てもらえる機会多し。 ・約15%がオックスブリッジに進学。
シュルーズベリー校	学長	・2008年からのフォームで、2014年からは全学年で女子を受け入れる。また留学生の受け入れや海外進出にも意欲的。そうすると経済的な面のみならず、学力面での向上も期待できる。	・オックスブリッジ合格者の名前・専攻等詳しくウェブに。 ・学校にオックスブリッジ合格者の記念写真が飾られている。 ・各年度のオックスブリッジ合格者の名前がポスターに記載され、図書館に飾られている。 ・約9%がオックスブリッジに進学。
ウィンチェスター校	元副学長	・入学者の全てがオックスブリッジに入学する熱意を持っているため、他にも選択肢があることを認得することが非常に難しい。 ・学力が極めて高く、頭の回転が早い生徒のみ入学させる。英語が不自由あるいは下手なといくなる生徒は×。	・アカデミックな生徒が多い。 ・土曜日の夜に課題図書を与えられ、平日に読み、次週の土曜日夜に討論する時間が設けられている。 ・GCSEにおいて歴史と英文学は、たとえ生徒が興味を持っていても、良いグレードを選択するのに時間と労力がかかるので取らせない。 ・約37%がオックスブリッジへ、アメリカIVリーグ等への進学者も10%

## パブリック・スクールと課外活動

- **ISC (Independent Schools Council) 調査**  
267の共学校、187の女子校、54の男子校における12,551のアクティビティを分析。
- **課外活動 (= 内容や教育課程の位置づけは異なるが日本の特別活動に相当) を多く提供している学校は、GCSE試験でより良い結果を生み出している。**
- ⇒ **30以上の活動を提供する学校は、生徒のほぼ100%がGCSEの科目においてB評価 (上から3つめ) 以上を取得。⇒ 20の活動を提供している学校はB評価以上の生徒が30%に留まる。**
- 課外活動への参加は生徒の自尊心を高める。
- 課外活動への参加がうつを改善させ、ドロップアウト率を下げる。

(出典) Lipsett, A., 'Extracurricular activities boost exam results', theguardian.com, 3 June 2009.

## 課外活動の意義

- **The Telegraph (2013年9月13日付)**  
「**エクストラな課外活動 (extra-curricular activities) はエクストラな努力が報われるもの**」  
大学受験の準備をする生徒は他の受験生と差をつけるために課外活動の存在を重く見ることを考え始めるべき。
- 課外活動に関する記述は大学入学願書の30%を占める。  
⇒ 大学側は受験生がどんな人間かを知るためにどんな特別活動を行ってきたかを知りたい。
- 課外活動は、自分の興味や情熱を実証するための手段。
- 課外活動を選択すること = 自分の楽しみを見出し、自分の望む人生の筋道を発見する最良の方法。
- 大学進学後に専攻する学問や卒業後の進路にも、中等教育機関で選択した課外活動が影響を与えることが明らかとなっている。

- **提供する課外活動の種類が多い学校は、生徒の全国試験の成績も良い。**
- **課外活動の選択が自身の大学進学後や将来の進路に影響を与える**

(課外活動に関するインタビュー)

面接調査時期：  
2013年6月  
面接者：元副校長

ウィンチェスター校	
教育方針	● 生徒の知的で創造的な気づきを促進する ● 読書や討論を通してコミュニケーション能力を磨く ● 大学入学のみならず、人生の準備を行う ● 大学進学への情熱を高める ● 偏常的な謙虚さを身につける
学校便覧やウェブサイトから得られた課外活動における内容	● 多くの課外活動が提供されている。 ● アクティビティに加えて世界的な著名人や音楽家を招聘してのイベントもあり。 ● 時間の許す限り、生徒にはクラブ活動やアクティビティに参加することを奨励している。 ● 多くの生徒がこのような活動の中で責任を果たし、活動グループをどのように結集、運営していくかを学び、非常に有意義な経験を積む。 ● 学校は生徒が熱意を持ったことに対して何でもそれを高めていけるような機会を提供することを心掛けている。 ● 多くの場合、努力は報われ、コミュニティ全体にとって利益となっている。 ● 美術、ベル、読書、キリスト教、クレイ射撃、GCF、DT、演劇、エジンバラ公アワード (Duke of Edinburgh's Award)、旅行、フィッシング、フィットネス、東郷アンサンブル、出版、ライフル、ダイビング、起業クラブ (Young Enterprise Company Programme)、その他、クラブ活動の中に、ロシア研究、スペイン語、チェス、古典、弁論、映画、天文学、社交ダンス、ラテンアメリカ文化、理論哲学、科学、古典文献鑑賞、その他
面談調査から得られた課外活動に関する内容	● ウィンチェスターではスポーツを重視しており、積極的に行うことが奨励されている。どんなスポーツでもひとつ行う必要がある。チームスポーツを行う必要はない ● 音楽も、スポーツ同様重視している ● 多くのスポーツ好きの生徒と同様、音楽の才能がある生徒も大勢いる。ほとんどの生徒が、一つ以上の楽器を弾んでいる。学校として、楽器を習うことを推奨している。 ● ハウスシステムが大事。ハウス対抗のアクティビティが多く、競争意識を持たせる ● イベント事を通して上級生が下級の模範となるよう育成している。

## パストラル・ケアについて

パストラル・ケア ≡ 『生活指導』 △  
≡ 『生徒指導』 △

岩橋法雄 (ダフネ・ジョンソン編 岩橋法雄 他訳 『イギリスの教育と福祉』 法律文化社、1983年、5頁)

語源的解釈  
「**パストラル・ケアとは、パスター (paster: 牧師/羊飼い) が信者/羊を親身になって世話するように人々にケアを施すこと**」

発表者によるパストラル・ケアの端的な解釈  
「**生徒の人間形成を手助けするためのケア**」

## パストラル・ケアの定義とは

- 1980年代末、勅任視学局 (Her Majesty's Inspectorate: HMI)  
**「パストラル・ケアとは教授と学習の質、生徒・教師・またはそれ以外の大人たちとの人間関係の本質、あるいは生徒の学力・人格・社会性の全体的な発達を観察するための準備、そして特にパストラル面や援助システム、また、課外活動や学校の校風といったものを通して、生徒の人格および社会的発展の促進と積極性の育成に関わるものである」**
- パストラル・ケア研究者 Ron Best (元ローハンプトン大学・教授)  
**「学校における活動の一端を担うものであり、単にカリキュラムにある知識を習得するだけではなく、全人的な人間となるよう子どもをケアし、支え、成長させることを目的としたもの」**  
(同氏へのインタビューによる。2016年9月)

17

## パストラル・ケアに関するインタビュー内容のまとめ

ハロウ校	セントポールズ校	ラグビー校
面接者（教務主任）による解釈 「生徒の健康と幸せな生活のためのもの」	面接者（パストラル担当教員）による解釈 「悪い点の改善と良い点の発展のコンビネーション」	面接者（パストラル担当副校長）による解釈 「アカデミックではないすべてのもの」
生徒のパストラル・ケアに対する定義づけは異なるが、パストラル・ケアに携わる人物に対する解釈は類似。	生徒によるパストラル・ケアの認識は弱い。人間形成に関わるものであるという解釈で共通。	・寮長（男女）と寮母がパストラル・ケアの最重要人物。 ・ハウスごとの家族単位というものを大切に。特に寮生活は欠かせないもの。チューターや医療スタッフ、カウンセラー等も加えたチームも大事。 ・PSHEE（人格的・社会的・健康・経済・教育）や宗教教育もパストラル・ケアの要素を多少包含。 ・公営学校と独立学校にパストラル・ケアの相違はあまりないが、通学制と寮制ではあり。 ・公営はパストラルよりアカデミック重視の傾向が否めない。
寮母、ハウスマスター、ハウスメイトのケア等、寮におけるパストラル・ケアをより強く想起する回答。	チューターがパストラル・ケアの中心人物。学業とパストラル・ケアの結びつきを強く想起する回答。なお当校はほぼ通学制のため、寮に関する言及なし。	

面接調査時期：2013年6月～2016年9月

18

## 英国パブリック・スクールにおけるパストラル・ケア

- パブリック・スクール3校の担当者に対するインタビュー  
 →パストラル・ケアに対する解釈は、学校によって若干の相違点あり。ただし、ケアに携わる人材・連携体制・ケア内容はいずれも非常に充実していることが明らかに。
- 心身のケアに加えて大学進学を目指す生徒にとっては、学術的サポートも重要  
 →進学校のパストラル・ケアでは、生徒の安全保護に留まらず学術面でのケアを行うチューターの存在が重要
- 3校ともに「パストラル・ケアより学業成績を重視」という考えではなく、パストラル・ケアの中に学業面のサポートが包含されているという解釈。（この考え方はベスト教授とも共通認識）アカデミック面とパストラル面は対義語的な側面があるが、アカデミックなサポートはパストラル・ケアに含まれる。

英国パブリック・スクールのパストラル・ケアは子どもの安全保護の枠を超え、学術的・身体的・精神的・宗教的ケアに加え、PSHEなどパストラル・カリキュラムも網羅的に包含した複合体制を取っている。

19

## パブリック・スクールに対する期待と展望

- ウォルフォード (Walford, Geoffrey) 1996年  
 「パブリック・スクールの存続は、サービスの質つまり大学や専門職そして社会のさまざまなエリート集団に優先的に入れる力を生徒が得ることができているかどうかにかかっている。今までのところ、パブリック・スクールは斬新的な変化による適応の中でそういうサービスを提供することに成功していると思われる」 in “Life in Public Schools”
- パブリック・スクールの教育も大学入試で成功するための教育であることが重要。

20

### 親のパブリック・スクールに対する期待

• MORI調査 (100校対象、2000年実施)

保護者がパブリック・スクールを含む独立学校を子どもの入学希望先を選ぶ理由：①一人ひとりに目が行き届く少人数制クラス、②高水準の教育と試験結果、③よい指導、④学業に責任ある態度を持たせようとする、⑤社会的責任の発達、⑥課外活動。

• ISC調査 (加盟校に子どもを学ばせている保護者を対象、2002年実施)

保護者が不可欠もしくは大変重要だと考えている教育とは：①生徒をお互い尊敬するよう鞭撻すること、②互いの福利に高い関心を寄せること、③行儀を身につけること、④それぞれの子どもに見合った教授法を示すこと、⑤独立した考え方を奨励すること。→保護者は、学校教育と指導に関して、試験やリーグ・テーブルの成績よりも、道徳的側面により大きな価値を置いている。

→親はパブリック・スクールに対し、学外試験で好成績を取るための大学準備機関の役割より、子どもの人間形成的側面の成長を促す役割を期待。

• MORI調査

①子どもをどの学校に行かせるかを決定する際、下にあげた要因のうち**重要視するものはどれですか**

②学校を決定する際、最も**重要視する要因を2つか3つだけあげればどれですか**

(単位：%)

【要因】	①重要視する要因				②重要視する要因
	1988	1993	1997	2000	2001
小規模学校	60	47	73	81	37
成績	66	94	79	80	21
教師の質				80	29
責任感の育成	77	77	78	79	23
潜在能力の開発			69	79	28
生徒一人一人に対応している	65	68	68	70	29
学校の評判	70	75	81	70	13
特別活動		61	60	66	10
スポーツ教育	54	55	54	58	11
設備				55	19
試験の成績	79	88	63	54	12
多様な科目				54	9
芸術・音楽教育	54	46	50	50	18

• フェテス調査 (フェテス校シックスフォーム生151名、2001年実施)

10年後に今の学校生活を振り返った時、大切に感じていることは以下の項目のうちどれだと思いますか

①あてはまる項目すべてにチェックを入れなさい ②一番大切に思う項目1つだけをまるで囲みなさい

(単位：人・%)

項目	①複数選択した場合		②1つだけ選択した場合	
	人数	割合	人数	割合
出会った人々	112	24.6	38	34.0
教育内容	112	24.6	36	32.1
大学入試のための準備	88	19.3	9	8.0
学力の向上	35	7.7	1	0.9
宗教教育	5	1.1	1	0.9
人間関係の経験	89	19.6	23	20.5
その他	14	3.1	4	3.6
計	455	100.0	112	100.0

(出典) 竹内洋「大衆教育時代におけるエリート中等学校の学校文化と人間形成に関する比較研究」

### 発表者によるインタビュー (1)

• 子どもをEtonとWinchesterに学ばせる保護者へのメールによる質問調査

「現在、これらの学校においてほとんどの保護者が期待する教育上の最優先事項は、生徒を良い大学に進学させることである」と明言。子どもが進学した両校について、「イートン校は、未来のリーダーを育成する学校、ウィンチェスター校は生徒を勉強好きにさせる学校」と、学校による差異を認識。その上で、子どもの個性に合わせて首尾よく大学進学までの学校生活をスムーズに送れそうな学校を選択することが望ましいと述べている。

(調査時期：2013年)

• 子どもをBradfieldとMilton Abbeyに学ばせる保護者へのメールによる質問調査

「少人数制のクラスで勉強に励むことができる場所が一番の理由。(というより配偶者の強い薦めが一番。) 子どもはどちらも寄宿生だったが、上の子は寄宿生活が好きで下の子は全く合わなかった。自身もパブリック・スクールで上2人の兄弟と同じ学校の寄宿生だったからまだよかったが、厳しい寄宿生活が合う子どもは少数派かもしれない。また、教員になる前に違うキャリアを経験してきた人と教員しか経験していない人だと、前者の方が素晴らしい先生だったという思い出があるので、独立学校が事実上QTSを保持しなくとも教員になれるという点が良いと思う。」

(調査時期：2023年)

## 発表者によるインタビュー (2)

### • イートン校の卒業生（2004-2009年在籍）への面接調査

「それだけではなく、学力的側面も重要である。ハウスではハウス・チューターのみならず、教科チューターもあり、生徒は彼らのサポートを享受できる」と回答。学力重視傾向あり。

(調査時期：2012年)

### • ハロウ校現役生徒への面接調査

「ハロウ校において学業成績は非常に重要であり、授業はレベルによってクラス分けがなされ、能力別によるスムーズな授業展開がなされている。また、ハウスにおける低学年の生徒は成績の高低によってフラットメイトが決定され、学習の相互扶助が期待されている。」

(調査時期：2016年)

25

## 親や生徒本人が望むこと — まとめ

- **専門家**によると、パブリック・スクールが存続・繁栄していくためには、よい大学に入ることや将来的に社会で躍進できる人間になることを期待できる学校でいられるかどうか重要。
- **親**がパブリック・スクールに期待することとして、大学入学準備が最重視される傾向はあるが、100%それが一番重要だと考える人ばかりではなく、少人数制クラスや教師の質といった教育環境のほか、人格陶冶に期待する部分も大きい。
- **生徒**は学力向上を意識しつつ、それが可能な環境にあるかどうかについても重視している。また教育内容や学校で出会う仲間とのネットワークについても重視。

26

## 政府や独立学校の取組

- 政府・独立学校ともに紛争地域や戦時下の子どもたちの教育支援や子どもの受け入れを実施。
- 各独立学校は1学年に1人～数十人単位で全額奨学生を受入れ。
- ISCによると、ISC加盟校は1年当たり4億6,400万ポンド（約835億円）の奨学金を支援。
- ISC加盟校のうち、3分の1の児童生徒が助成を受けている。
- 独立学校で学ぶ機会がなくとも、エディンバラ公アワード（青少年体験活動プログラム）に挑戦するための支援を政府が実施（2021～2023年度）。
- 2021年、公費維持学校でもラテン語を学習するための教育支援を政府（ラテン語卓越プログラム）が導入。

27

## まとめ

### ● 現在のパブリック・スクールの特徴

- ①パブリック・スクールが大学進学に有利な学校群、②課外活動が豊富、③手厚いパストラル・ケアを重視し、アカデミックな側面のケアを中心に生徒の心身のケアなどに注力
  - ④【望むこと】 親：大学進学準備校+伝統的な紳士淑女養成校としての役割を期待  
子ども：大学進学準備校+仲間とのネットワーク構築を重視
- ⇒ パブリック・スクールはこれらを全て網羅した教育像を期待されつつ、それに応えるサービスが提供されている。

### ● 独立学校をめぐるイギリスの教育の在り方

- 政党や社会階層によっては現在も独立学校に否定的。ただし大学進学準備校の役割：公営学校と独立学校の差は縮小。
- 独立学校団体による経済支援：ISC加盟校在籍者の3分の1以上を助成。
- 政府は貧困地域の公営学校の生徒を対象にした青少年体験活動プログラム（D of E Award）の参加費補助・ラテン語の学習支援を実施。独立学校外への教育機会の充実を図る。

28

ご清聴ありがとうございました。



Dulwich College in 2020 (発表者撮影)



## パブリック・スクールのイメージ 1/2

### ①古典的なもの

- ・ラグビー・スクールのトマス・アーノルド校長による改革 1820年頃～
- ・「トム・ブラウンの学校生活」 (1930年代の体験談)
- ・「チップス先生さようなら」 (20世紀前半が舞台の小説と映画)
- ・「自由と規律」 (1920年代の体験談) 池田潔

古典 (ラテン語) ?  
 先生による体罰 ?  
 先輩による後輩いじめ ?  
 個性をつぶす ?



2/15

## パブリック・スクールのイメージ 2/2

### ②第二次世界大戦以降のもの

- ・ウィリアム王子 (1995年入学)
- ・ハリーポッター (小説と映画、1996年以降)
- ・「The Riot Club」 (イギリス映画) 2014年
- ・「Posh Boys: How English Public Schools Ruin Britain」 2018年
- ・BL (Boys Love)



スーパーセレブ ?  
 ファンタジーの世界 ?  
 金持ちのどら息子 ?

3/15

## なぜ授業料が高いか？

- ・教員・アシスタント・職員をはじめスタッフの数が極めて多い
- ・よい教員を集めるため、教員の給料が高い  
 →ひとクラスの人数が少ない&選択科目の数が多い。→生徒の多様性に対応可
- ・素晴らしい施設や広大な敷地の維持費が高額
- ・各種の奨学金 (scholarshipとbursary)
- ・寄付は学校の共通財産という考え。積極的に募る

4/15

## どんな生徒が入学する？

- ・長時間にわたる入学面接を乗り越えられる子
- ・優秀な同世代の集団に飛び込む覚悟のある子
- ・多くは富裕層だが公営学校出身や全額奨学金の子も。
- ・家柄や寄付だけでは入学できない。
- ・イギリス各地から。コモンウェルスを中心に世界各国から。
- ・学業・スポーツ、芸術、演劇、ITなど得意分野がある子
- ・厳しい規則に耐えられる子
- ・ハウスでの団体生活に適性があり、ハウスに貢献できる子



5/15

## どんな親？

- ・親は、教育にお金を費やす意味を理解している人  
=パブリック・スクールの価値を理解し、子供に良い教育を受けさせたい人  
(少なくとも見た目は普通の親。先生とファーストネームで呼び合うことが多い。)
- ・たいていの親は共働き。  
ーリスクをとる実業家、経営者  
ー専門を生かす仕事の従事者
- ・ハウス愛が強い（ハウスマスターにもハウスの生徒たちにも・・・）
- ・日本人に根強い“清貧思想”と、“教育のビジネス化”への懐疑は無さそう

6/15

## どんな教員？

- ・教える分野で優秀だけでなく、オールラウンドの人が多く（特技や趣味が多い）
- ・全寮制の教育を理解・適合できる。
- ・独立学校出身者も公営学校出身者もいる
- ・校長や各教員の自由裁量が大きい→特徴を発揮できる
- ・教員の募集が柔軟→いろいろなバックグラウンド  
(教員免許は必須ではない。能力・熱意・協調性を重視)
- ・有力パブリック・スクール同士で転職
- ・家族ぐるみのつきあいができる



7/15

## どんな教育？

- ・生徒を多側面から評価。机上の勉強だけではない。  
例)スピーチデー(年一回の総合表彰式)では賞が250種も!
- ・基本的にハウス単位で行動。ハウス対抗戦、ハウス行事・・・
- ・歌を歌う機会が多い(各ハウスでの合唱会、ハウス対抗合唱大会、学校全体の合唱会など)
- ・目に見える評価(表彰と罰)
- ・低学年は耐える。高学年はリーダーとなり大人として扱われる
- ・生徒の多様性・個性を促進
- ・卒業時には、自信と謙虚さを持つ



8/15

## 伝統的？因習的？

- ラテン語やギリシャ語・・・西洋文明の継承者としての自覚
- 正装・・・TPO（時、場所、場合）をわかまえる
- 軍事演習・・・自国の防衛・安全を考える
- 「学校の名前」を一生背負う…プライドと重荷
- 「伝統（無形文化遺産）」を伝えていく責務



9/15

## 革新的な側面は？

- ICT化（ハロウ校では2017年から一人一台PC、教室はスマートボード）
- LGBTへの理解
- Children with SEND（特別支援が必要な生徒）への手厚い支援
- 男子校でも、女性教員多数。女性の寮長も。
- いろいろな人種の生徒会委員

10/15

## ハロウ校による公営学校との取り組み・交流

- ボランティア活動として公営小学校の生徒をハロウ校に呼ぶ
  - 理科の実験
  - 語学、外国文化体験
- 講演会に呼ぶ
- 各種コンペティション、行事に呼び合う
- Luminaプログラム 2014年～
  - 三日間の無料サマーコース・・・ハロウ教員が公営学校の生徒に（特にオックスブリッジの）進路指導を行う
  - オンライン指導・・・教育環境が良くない子どもに個人指導

公営学校から招待  
されました



11/15

## パブリック・スクールへの風当たり

- イギリスの名門大学で、独立学校出身入学者割合の制限
- 労働党政権による税法改正案
- アファーマティブ・アクション affirmative action
- コンプライアンス compliance

しかし…能力の条件を満たし、規定金額を払えれば誰でも入学できる！



12/15

## “のれん”は それでも魅力的

- 伝統のある国の生徒は、伝統の継承
- 伝統のない国の生徒は、伝統へのあこがれ
- 卒業生の実績は嘘をつかない
- 全世界に幅広いネットワーク。関係は一生続く。  
(味方も敵も作るけれど…)



13/15

## イギリスの学校研究における日本との比較の難しさ

- 日本の私立校と公立校の差は、イギリスのそれに比べ、ずっと小さい  
→日本の私立校とイギリスの独立学校、特にパブリックスクールの比較は極めて難しい
- 日本の普通高校とイギリスの普通高校 (Sixth Form) はかなり違う
- 日本の大学受験とイギリスの大学受験はぜんぜん違う
- イギリスの大学は通常、付属高校・中学・小学はない
- 日本の旧制中学とパブリック・スクール比較もなされるが、個人的には似ていない部分が多いと思う
- 日本に進出してきたパブリック・スクールの分校と、イギリス本校はかなり違う。  
『学費850万円は高いか安いかわかる 日本に開校した英名門「ハロウ校」』デイリー新潮 2022年10月21日  
<https://www.dailyshincho.jp/article/2022/10/210610/>

14/15

## 今後のイギリスの学校研究のご提案

- イギリスの学校に在籍した日本人とその保護者  
(伝統校の場合は特殊な英語を理解できる)
- イギリスの教育を紹介する会社
- イギリス研究者・教育現場の経験者



三位一体で多角的に研究してみたい



## おまけ 図書の紹介『紳士道と武士道 日英比較文化論』

トレバー・レグット (1914-2000) 著、サイマル出版会 1973年/1983年新版

1940年代に在日外交官、戦後はBBCの日本語部長を数十年務めた。  
趣味の柔道と将棋で、ともに高段者。日本の古典にも詳しい。

この本を読むと

- イギリスで良い教育を受けた人がどんな人であるか、がわかる。
- イギリス人の考え方のルーツがよくわかる。  
(考え方を紹介するだけでなく、どうしてそう考えるようになったかを説明している。)
- パブリック・スクールの目指す教育がよくわかる。  
(注：筆者は卒業生ではない。)





## 目次

- 1. 発表の目的
- 2. アカデミーによる公営学校改革
- アカデミーとは何か
- 拡大の経緯
- 推進する理由
- 課題
- 3. MATの概要
- 4. 公営学校改革と独立学校

## 1. 発表の目的

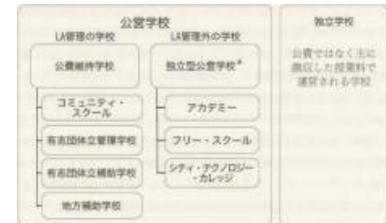
- 19世紀後半：1870年の基礎教育法の成立による初等教育の義務教育制度の導入
- 20世紀前半：1902年に成立した地方教育当局（2005年以降は地方当局）が各地域の公営学校（state school）を管轄
- 20世紀中盤：1944年教育法による三分岐制を枠組みとする前期中等教育制度の整備  
→その後、中等教育の総合制化が議論され、1970年代後半には大半の生徒が総合制中等学校に就学するに至る
- 20世紀後半：社会のさまざまな分野で新自由主義的な政策を導入していたサッチャー保守党政権による1980年代後半からの教育改革によって、個々の学校が人事権や財政権を有するようになり、学校とLAの関係が大きく変化  
→1988年教育改革法はナショナル・カリキュラムとナショナル・テストの導入ならびに学校ごとの成績の公表、また、自律的 school 運営ならびに在籍する児童・生徒数によって算定する財源配分方式の導入によって、競争的な環境を創り出すとした。
- 21世紀前半：2010年のアカデミー法。すべての公営学校をアカデミーにする政策が進行中。

※公営学校のアカデミー化の現状と課題について検討するとともに、公営学校改革による独立学校への影響についても考察する。

## 2. アカデミーによる公営学校改革

### アカデミーとは何か

- イギリスの学校：公営学校 (state school) と独立学校 (independent school) に大別
- 公営学校内もLA管理が管理外かに分かれる
- アカデミーは独立型公営学校の一つ
- アカデミーは中央政府から直接資金を受け、非営利団体であるアカデミー・トラストによって運営される公設民営学校
- 例えば、ナショナル・カリキュラムに従う必要はなく、学期日程を独自に設定することも可能→公費維持学校よりも学校運営の自由は大きい



出典：日英教育学会編『英国の教育』東信堂、83頁

- しかし、他の公営学校と同様に、生徒から授業料を徴収することはなく、入学や特別教育ニーズなどに関する政府の定めた規則に従わなければならない。

### 拡大の経緯

- 1997～2010年の労働党政権下で困難を抱える学校の再建を目的に導入
- 2000年の学習技能法 (Learning and Skills Act 2000)：「都市型アカデミー」の設立が規定
- 2002年教育法においてアカデミーと改称
  - 労働党政権はアカデミーを限定的に活用しており、成績不振の状態が続くLAでは再建が困難であると認められた中等学校にのみ適用
  - 労働党政権下のアカデミーの数と生徒数は202校・192,640人（2010年1月時点）にとどまっていた。
- 2010～2015年の保守党と自由民主党の連立政権は、学校の教育水準を向上させるアカデミーの機能を高く評価
  - それまで対象外であった初等学校や特別学校などのすべての学校がアカデミーになることを認める法律 (Academies Act 2010) を導入
- 2015年以降の保守党政権においても、アカデミーを推進する政策は継続
- 2016年3月には、イギリスのすべての公営学校をアカデミー化する方針を発表

Figure 12: Net total of academies and free schools<sup>14</sup> opened (by academy type)<sup>15</sup> 16  
(source: <https://get-information-schools.service.gov.uk/>)

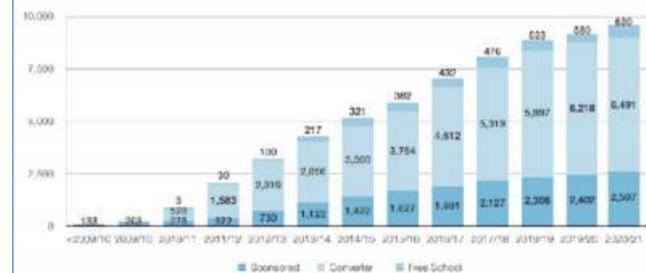
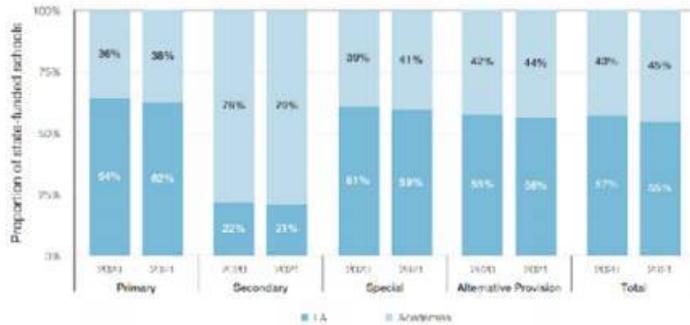


Figure 12 shows the number of academies that were open at 31 July 2021, broken down by different types of provision.

Department for Education (2023) Academy Schools Sector in England: Consolidated Annual Report and Accounts 2020 to 2021, p.29.

Figure 14: Proportion of state-funded schools operating as academies by provision type at 31 July 2021 (source: <https://get-information-schools.service.gov.uk>)



Department for Education (2023) Academy Schools Sector in England: Consolidated Annual Report and Accounts 2020 to 2021, p.30.

## 推進する理由

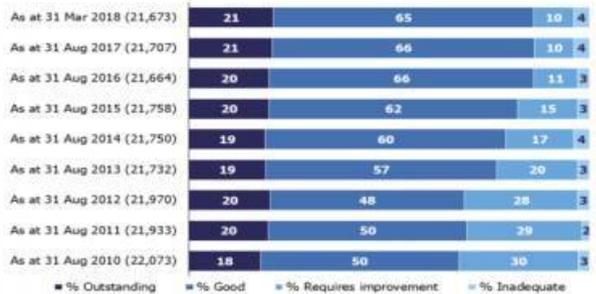
2010年学校白書

- 世界トップレベルの学校教育を目指す取り組みの一環として新しい学校制度の創出を掲げ、その中心的な理念を学校の自律性の拡大とした。
- OECD：高いレベルの説明責任を保持しつつできるだけ多くの権限を委譲された学校の存在が教育水準の向上に効果的
- アカデミー：良い教育を提供してきた実績  
→LAの管理を離れ、独自の特徴や専門性を発展させる可能性をすべての学校に与えるために、労働党政権下で限定的に活用されたアカデミーをすべての学校に開放

2016年学校白書

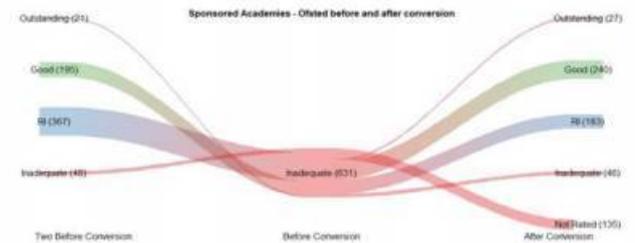
- アカデミーは教育水準の向上に効果的である
- 成績不振を理由にアカデミーに転換した学校の成績の上昇率は他の学校の2倍以上
- 優秀な学校からアカデミーに転換した学校の成績は全国平均を大幅に上回っている
- 成績不振の学校からアカデミーに転換した場合、スポンサーが必ず付くことになっており、そのスポンサーのもつ強力な経験や専門知識が発揮されているから
- 優秀な学校からアカデミーに転換した場合は、自律性と説明責任が一致した環境下で、学校の指導者は水準向上につながると信じる決断を自由に下すことができるから

Figure 1: Most recent overall effectiveness grades of schools over time\*



- 2010年には全体の33%の学校がGoodよりも低い評価を受けていたが、2018年には14%に減少している。
- DfE, *An analysis of the performance of sponsored academies Analytical research report*, January 2019, p.12.

Figure 2: Ofsted outcomes for inadequate schools that became sponsored academies prior to and following inadequate inspection outcome

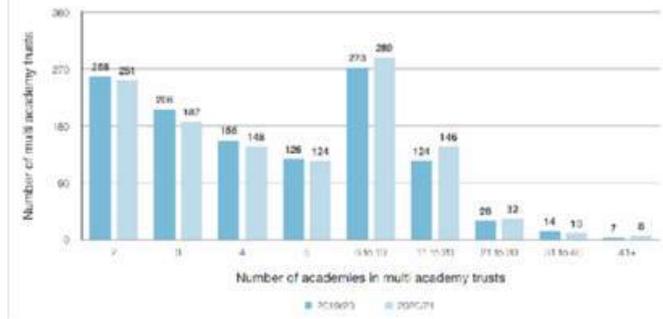


- Inadequateの評価を受けて、スポンサー・アカデミーになった631校のうち、約7割の学校が次の査察結果で改善している。
- DfE, *An analysis of the performance of sponsored academies Analytical research report*, January 2019, p.13.

## 課題

- 当初、政府はアカデミーに転換した優秀な学校が他の学校の改善を率先して支援することを期待していたが、学校同士が自主的に協同体制を構築することは容易ではなく、また、複数のアカデミーを管理するマルチ・アカデミー・トラスト（Multi-Academy Trust：以下MAT）の場合にも規模が小さいと十分な支援が困難であるという状況がみられた
- 現在では単にアカデミーの数を増やすということではなく、MATの規模を大きくすることならびに強力なMATを増やすことに注力するようになっていく
- 2020/21年度のデータによれば、MATは1,198あり、平均すると1つのMATが7校のアカデミーを管理していることになるが、MATの規模の差は大きく、最も規模の大きなMATは76校のアカデミーを有しており、一方2校で構成されているMATは251で全体の約2割を占めている。
- 政府はMATが10校を超える規模になると財政的に安定し、専門性をもつ人材を十分に配置し、学校の改善を推進することができると考えており、2022年の学校白書では、2030年までにすべての学校を強力なMATに加盟させることを目指すとしている。

Figure 18: Number of academies in multi academy trusts as at 31 July 2021<sup>21</sup>  
(source: <https://get-information-schools.service.gov.uk/>)



Department for Education (2023) Academy Schools Sector in England: Consolidated Annual Report and Accounts 2020 to 2021, p.32.

## 3. MATの概要

### MATとは

- MATとは、アカデミーの集合体であり、トラストを形成するもの
- アカデミーは、教育省（DfE）からの直接の国家資金に依存する教育機関であり、トラストに参加すると、アカデミー資金調達協定に基づき、資金が各校で共有される
- MATとそのアカデミーは、地方自治体から独立し、実質的に慈善団体となり、すべての意思決定を監督する単一の評議員会（board of trustees）を持つ。
- また、MATの学校の職員はすべてMATに雇用される
- MATは、学校の水準を向上させ、維持するために、多くの優れた指導者、教師、ガバナーによって創設される
- MATの構成は、初等学校のみ、中等学校のみ、ミックスなどさまざまな組み合わせがある

## MATの経営

- アカデミーは保証有限責任会社（companies limited by guarantee）として設立され、教育省、教育技能資金調達庁（Education and Skills Funding Agency）、Ofstedに説明責任を負う免除慈善団体（exempt charity status）としての地位を有している
- 慈善団体と同じように、MATはすべてのアカデミーの活動を管理し、財政支出を管理するための階層構造を持つ
- 評議員会とは別に、MATは説明責任を果たすためにエグゼクティブ・リーダー（CEO）を任命する
- トラスト全体の管理はCEOが行うが、個々の学校の日々の管理は、校長とシニア・リーダーシップ・チームによって行われている。
- 強力なトラストの3要素
  - 子どもたちに素晴らしい成果をもたらすための戦略構築と、組織全体に必要な説明責任の文化を両立させることができる、幅広い職業経験を持つ評議員会であること
  - 学校全体の水準について責任を負う優秀なCEOを任命すること
  - 人材育成と改善、後継者の育成、優れた教師とリーダーがより多くの子どもたちの成果に影響を与えることを可能にする学校改善戦略の策定と実行

## MATの共通ガバナンス構造



Department for Education (2020) Academy Trust Governance-Structures and Role Descriptors, p.6.

- 教育省（DfE）およびその関係機関：エージェンシーにはRSCやESFAなど
- 会員（member）：事前目的を達成するための権限行使の一般的義務を負う人
- 評議員会（Trust Board）：議長（Chair）が率いる評議員会は、意思決定機関であり、加盟しているすべてのアカデミーに対して責任を負う

## MATの共通ガバナンス構造



Department for Education (2020) Academy Trust Governance-Structures and Role Descriptors, p.6.

- エグゼクティブ・リーダー：複数のアカデミーを有するトラストのCEOである。会員はCEOを評議員会に任命することができる。
- 監査・リスク委員会：MATは監査・リスク委員会を設置する必要がある。年間収入が5,000万ポンドを超えるトラストは、専門の監査・リスク委員会を設置しなければならない。

## 4. 公営学校改革と独立学校

## アカデミーと独立学校の違い

- ・ 授業料：アカデミーは徴収しない、独立学校は徴収する
  - ・ 査察：アカデミーはOfsted、独立学校は独立学校評価機構（Independent Schools Inspectorate）またはOfsted
  - ・ 慈善団体の地位：慈善団体は「公共の利益」のために設立されなければならない、アカデミー・トラストは慈善団体、独立学校はすべてが慈善団体であるとは限らない（独立学校の約半数が慈善団体として登録されている）
  - ・ 入学者選抜：アカデミーは全国的な入学者選抜方針に従う、独立学校はその方針に従う必要がなく、多くは学力による選抜を行う
- 
- ・ カリキュラム：どちらもナショナル・カリキュラムに従わなくてよい
  - ・ 教員資格：どちらも資格を持つ教師を雇う必要はない

※類似点もあるが、アカデミー化＝独立学校化ではない。

## 公営学校改革の独立学校への影響

- ・ アカデミーの拡大は独立学校の生徒募集に影響を及ぼしているか  
→管見の限り、そうした影響は確認できない。  
→独立学校協議会（Independent School Council）の2021年の報告書にある独立学校生徒数の推移をみても、1990年以降生徒数は一貫して増えており、2011年と2021年の比較でも2021年の方が増えている。
- ・ 慈善団体の要件を満たす方法の一つとして、独立学校と公営学校のパートナーシップ（Independent and state school partnership）の締結があり、2023年1月の調査では1,043の独立学校が公営学校とパートナーシップを結んでいた。
- ・ 2016年のテレサ・メイ政権の時には、優秀な独立学校にはアカデミーの支援を義務付けるといった諮問が行われたこともあった。  
→今後も、独立学校の教育力を活用しながら、アカデミーの教育水準の向上を目指すという政策は続くことが予想される。

# 英国の独立学校について考える

—グローバルに進行する  
プライヴァタイゼーション?—

## 指定討論

宮島 健次  
(西武文理大学)

1

## 指定討論の役割

1. 4人の登壇者が提示した内容から、いくつかの論点を絞り出し、その点についての認識を登壇者に再確認しつつ、フロアとの討議に引き継ぐ
2. 4人の登壇者が提示した内容から、イギリスの独立学校の状況が我々に示唆する点を明示する
3. 上記2を日本の私立学校の文脈に照らし合わせると、どのようなことが言えたり、考えられたりするのかが、問題提起を行い、フロアとの討議を促す

2

## 本シンポジウムで設定された4つの視点

1. 保護者の教育期待
  - 独立学校は階級再生産／上昇戦略／階級閉鎖戦略のための装置か？
2. 教育の市場化
  - 英国の独立学校システムの輸出は、グローバルな市場拡大という意味を持つか？
3. 学力観
  - グローバルな学力観は独立学校における教育内容に影響を与えているか？
4. 公私関係の変容
  - 独立学校の存在と公営学校の改革の関係は？

3

## I 小針報告、松原報告に対して

### 【論点】保護者の教育期待

- プレップスクール＋パブリックスクールと地域コミュニティとの包括的關係
  - (地域コミュニティとの関係において) 統合か、分断か？
    - 日本の私立学校は、経済的背景(生活水準)を前提とした選抜が主
  - その結果
    - 保護者も子どもも→地域コミュニティとの関係性の希薄化
    - 子どもの友人関係
      - ×「近所に住む」同じ年齢の人たち
      - ○「遠くに散らばって住んでいる」が「よく似た」人たち
    - プレップスクール、パブリックスクールに子弟を通わせる保護者相互の關係、そのような保護者と地域との關係はどのようなものか？
    - プレップスクール、パブリックスクールに通う子どもはまわりはすべて自分と似た人たちだから、たとえば「子どもの貧困」やさまざまな「社会的格差」が見えなくなる？

4

## 2 古阪報告・松原報告に対して

### 【論点】教育の市場化+教育格差+学力観

#### ➤教育の「サービス」化への対応は？

- 20世紀末、消費社会の到来とともに、教育は「贈与」型から「等価交換」型に変容し、「サービス」となる
  - 古典語（古代ギリシア・ラテン語）は「贈与」型、それに対して生徒たちはどのように対応しているのか？「伝統」として抵抗なく受け入れているのか、どのような価値づけがなされているのか？
- タイムパフォーマンス（時間対効果）のような学力観はあるのか？
  - （余談）GCSEやGCE Aレベルで、パブリックスクール以外の学校が価値を見出さない科目をあえて学び、受験することで高得点を狙うという戦略があるらしい。

#### ➤課外活動における「体験重視」傾向

- 生徒間の（家庭の）経済格差は就学前、就学後を問わない「体験格差」を生み出すのでは？
  - 奨学生として入学 → 実家が「細い」
  - 通常入学 → 実家が「太い」
  - → 生育環境下（家庭内）での体験の過多は影響ある？

5

#### ➤パブリックスクールの時間割は、昔と比べてどう変化しているのか？

- 昔 … 午前中が授業、午後は課外活動。
- 果たして現代も同様か？

#### ➤現代におけるパブリックスクールの社会的評判はいかなるものか？

- パブリックスクール通う生徒をエリートとしてみるのか？その見方は尊敬なのか羨望なのか、それとも？
- とときどきマスコミをにぎわす闇（いじめ、同性愛等）の部分はどうか？

#### ➤21世紀の課題、特にAI時代に打ち勝つ人づくりについて、どのように認識されているのか？

- インターネット、SNSの進歩によって、コミュニケーションのあり様が変わりつつある。日本では、新井紀子らが中心に、子どもたちの「読解力低下」を指摘し、社会問題化している（『AI vs 教科書が読めない子どもたち』）。読解力の低下の要因として「異常なほどの飛ばし読み（AI読み）」が言われるが、イギリスでもこのような問題は認識されているのか？その影響は学力に現れていないか？

6

### 3 青木報告、松原報告に対して

【論点】教育の市場化+教育の質保証+保護者の教育期待

➤ 公営学校のアカデミー化は、市場の要請か？

- アカデミー化することで、財政的な余裕が生まれ、教育資源が豊かになり、その結果、本当に生徒の学業成績も向上しているのか？
- 地方教育当局からの独立は何を意味するのか？

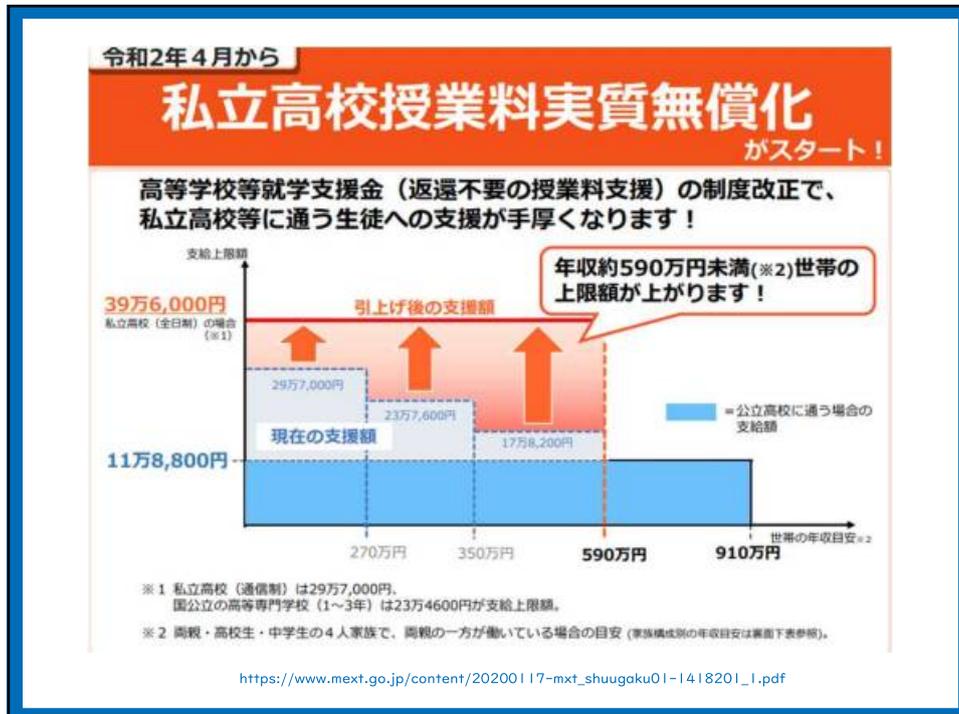
➤ 日本の場合

- 都市部 … 私立学校の社会的評判は概して高い
- 地方 … 私立学校の社会的評判は公立学校より低い
  - その結果、都市部の公立学校は都市部の私立学校を「成功モデル」としてお手本化→公立の私立化
  - 高等学校等修学支援金制度（高校無償化政策）によって、従来は私立が排除してきた層が、こぞって私立に入学できる環境が成立→私立の公立化

➤ こうなると高い教育費をかけてでも、我が子にはいい教育環境を用意したいと思っている保護者たちはどこを目指すのか？

- → 英国のパブリックスクールが輸出される意味のひとつとしてとらえられるか？

7

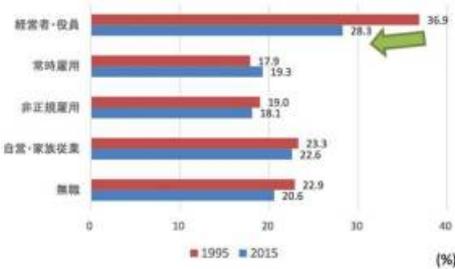


8

## 4 全体に関わる論点

### 【論点】ノブレス・オブリージュについて

- 現代の英国のプレップスクール、パブリックスクールでは直接的、間接的にノブレス・オブリージュに触れるのか？
- 公営学校のトップ校ではどうなのか？
- 日本のエリート教育
  - 家庭の経済的背景に問題がなく、学業成績がよければ、誰もが「エリートになれる」可能性がある。
  - ノブレス・オブリージュの醸成が難しい。



三谷はるよ(龍谷大学)は、日本のエリートが社会貢献(ボランティア活動)から撤退していることを指摘する。  
(<https://gendai.media/articles/-/70652?imp=0>)

9

## 上野千鶴子の東大入学式祝辞

➢あなたたちはがんばれば報われる、と思ってここまで来たはずですが、冒頭で不正入試に触れたとおり、がんばってもそれが公正に報われない社会があなたたちを待っています。そしてがんばったら報われるとあなたがたが思えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったこと忘れないようにしてください。あなたたちが今日「がんばったら報われる」と思えるのは、これまであなたたちの周囲の環境が、あなたたちを励まし、背を押し、手を持ってひきあげ、やりとげたことを評価してほめてくれたからこそです。世の中には、がんばっても報われないひと、がんばろうにもがんばれないひと、がんばりすぎて心と体をこわしたひと...たちがいます。がんばる前から、「しょせんおまえなんか」「どうせわたしなんて」とがんばる意欲をくじかれるひとたちもいます。

➢あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれないひとびとを貶めるためではなく、そういうひとびとを助けるために使ってください。そして強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きてください。

(平成31年4月12日。赤字は報告者 [https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b\\_message31\\_03.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message31_03.html)より)

10

➤上野千鶴子の祝辞

- 日本のエリートたちが「見落としているものは何か」を象徴しているのではないか。

➤最後にもうひとつ、4人の登壇者にぜひ聞きたいことがあります。

- 学費免除だとしたら、先生方はご自身の子弟(いると仮定して)を英国本国のプレップスクールおよびパブリックスクールに入学させたいですか？  
またそれはなぜですか？